

ごとう通信

第 82 号

平成 19 年 10 月 1 日

まだまだお天気が落ち着きません。すごく暑い日があったと思うと急激に冷え込む日があったり。ただ、確実に秋の訪れを感じます。一年で最も良い時期を迎えます。今年の夏は特に暑かったのでこの辺で身体に休息を入れたいですものね。

さて、先日、ある出来事があり、「ワタミ」グループの代表、渡邊美樹氏にお手紙を書きました。皆さんもご存知のように渡邊氏は居酒屋チエーンオーナーであるばかりではなく、学校法人や医療法人の運営も手がけ、最近では介護業界にも進出したテレビでもおなじみの超多忙人間です。僕の手紙などは「そのうち目にとま

つたら良いなあ」と思って出したものでした。お便りを出した翌々日、なんと渡邊氏自筆の手紙が戻ってきたのです。とにかく、とにかくびっくりしました。

あの多忙な方がすぐに僕の手紙を読まれたことだけでなく、ワープロなどで印刷された通りいっぺんのお礼状ではなく、自筆（筆ペン）でご意見を頂いたことに驚きました。やっぱり社会で活躍される方は違うということを感じました。僕なんてお中元のお礼状もろくろく書いていないのに：

ちなみに形から入る僕は、渡邊氏を見習うべく、手紙セットと万年筆をすぐに購入しました。今、お便りを頂いた方にはもれなく返事が行きますよ！（期間未定）

健康のプロ

最近聞いた言葉の中でとても印象に残っている言葉は「医者って健康のプロじゃないんだよねえ、病気のプロだけだ」。これは、財政破綻した北海道夕張の病院に赴任したカリスマ医師の言葉。昔から僕が考えたことがその言葉に集約されているように今では僕のマイブームです。

さて、先日大宮で開催された摂食・嚥下リハビリテーション学会というところに久々に参加してきました。以前何度か参加したことがありましたが、今回はシンポジストとして招かれ、約七年ぶりの参加でした。この学会は、いわゆる「食べる」機能を失った方に対するリハビリをする方たちが集まる会で、医師、看護師をはじめ多くの職種が集結するにぎやかな会です。今回も大盛況で、参加者は約